

第8回若手かんがい技術者による海外事業・研究に関する事例報告会および 第6回かんがい排水に関する勉強会報告

ICID－YPF代表 丸居 篤（弘前大学）

毎年恒例となったYPF（Young professional of Irrigation Forum）の事例報告会および勉強会ですが、今年のテーマは「これからの農業土木のビジョンを語ろう」と題しまして、国内外における農業土木事業・研究プロジェクトの事例発表ならびに、谷山ICID名誉副会長からご講義を頂きました。毎回、企業、研究所、大学、行政の若手かんがい技術者が集う勉強会で、お互いの交流と情報交換を目的に、毎回それぞれの業種からバランス良く発表をして頂いています（詳細は下記プログラム）。また勉強会では、毎回経験豊富な講師から経験談や若手に期待する事等をご講義頂いていて、YPF卒業後（youngは40歳まで）のリピーターも多く毎回好評です。

今回の勉強会では、まず、島根大学の宗村先生より、ご自身の米国留学の体験について、米国と日本の研究資金制度や研究組織の違いなど、研究代表者の予算の獲得の重要性、大変興味深く他人ごとではない話を紹介いただきました。同時に、米国テキサス州でされた水文水質に関わる調査研究についても説明頂き、専門的な研究成果や米国での研究の方向性などの紹介もさることながら、研究チームの作業分担の徹底ぶりを聞くことができました。

JIRCASの大西氏からは、ウズベキスタンの塩類集積防止策の取り組みについて、これまでJIRCASが実施してきた、節水技術、暗渠施工、圃場の均平化など紹介頂きました。また、ウズベキスタン政府の方針やフェルメル（農家）の考えや思いなど、私見を含め分かりやすく説明して頂きました。

NTCインターナショナルの福田氏からは、インド国ヒマーチャル・プラデシュ州における野菜栽培のための水管理技術について、現地での技術移転やワークショップの様子などを紹介いただきました。インド政府は、農家の収入増のため付加価値の高い作物栽培を目指しており、参加型水管理の普及を含めたプロジェクトであるとのことでした。

質問や議論が活発に行われましたが、太田会長からは、参加型活動をチェックするキーポイントとして、「聞いているか？」、「理解しているか？」、「納得したか？」、「行動しているか？」、「続けているか？」という5つの段階の項目を教えて頂きました。途上国でのPIMや様々な場面での活動チェックにふさわしく、PDCAサイクルの際に有用な考え方であると思いました。

谷山名誉副会長からは「ICID内での日本の歴史と貢献」とご自身の著書である「水が握る日本の食と農の未来」の内容についてお話頂きました。ICIDの設立時から日本の加盟、アジア地域会議の発足の裏話をして頂きました。また、現在世界の穀物需要と実際の生産量、今後の展望など、まさに今後若手かんがい技術者に期待する話題をお話頂きました。討論では、世界における水田の多面的機能の理解度や認知度について話題になり、また、今後の貿易と日本の農業のあり方について質問や議論が活発になされ、予定時間を20分オーバーするほどでした。

最後になりますが発表して頂いた皆様と、快くご講演を引き受けて頂いた谷山名誉副会長に感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

プログラム

開催日時：平成25年12月18日（水）

開催場所：（財）日本水土総合研究所 12階会議室

13:00 - 13:05 開会 事務局

13:05 - 13:10 開会の辞 日本 ICID 協会会長 太田 信介 氏

13:10 - 13:50 事例報告① 「米国留学で学んだこと・感じたこと」
島根大学 准教授 宗村 広昭 氏

13:50 - 14:30 事例報告② 「ウズベキスタン国における灌漑農業に伴う塩類集積」
JIRCAS 研究員 大西 純也氏

14:30 - 15:10 事例報告③ 「インド国ヒマーチャル・プラデシュ州作物多様化推進
プロジェクトにおける水管理業務」
NTC インターナショナル株式会社 技師 福田 明広 氏

15:10 - 15:20 ICID マーディング会議の報告 丸居 篤 氏

15:20 - 15:30 休憩

15:30 - 16:40 講義 「ICID 活動から世界の食料と水資源を考える」（70 分）
ICID 名誉副会長 谷山 重孝 氏

16:40 - 16:50 休憩

16:50 - 17:30 総合討論（40 分）

17:30 - 17:40 閉会の辞 YPF 代表 丸居 篤 氏

司会進行： 日本 ICID 協会事務局

